

香川県の温室効果ガス排出・吸収量のとりまとめについて

①温室効果ガス排出・吸収量の状況

【令和3(2021)年度(確定値)】

- 2021年度の温室効果ガス排出量は9,299千t-CO₂となり、森林吸収量を差し引くと9,197千t-CO₂となります。
- 基準年度(2013年度)と比較して、27.5%(3,494千t-CO₂)減少しました。

【令和4(2022)年度(暫定値)】

- 2022年度の温室効果ガス排出量は8,378千t-CO₂となり、森林吸収量を差し引くと8,259千t-CO₂となります。
- 基準年度と比較して、34.9%(4,432千t-CO₂)減少し、前年度からは10.2%(938千t-CO₂)減少しました。

図1 温室効果ガス排出・吸収量の推移

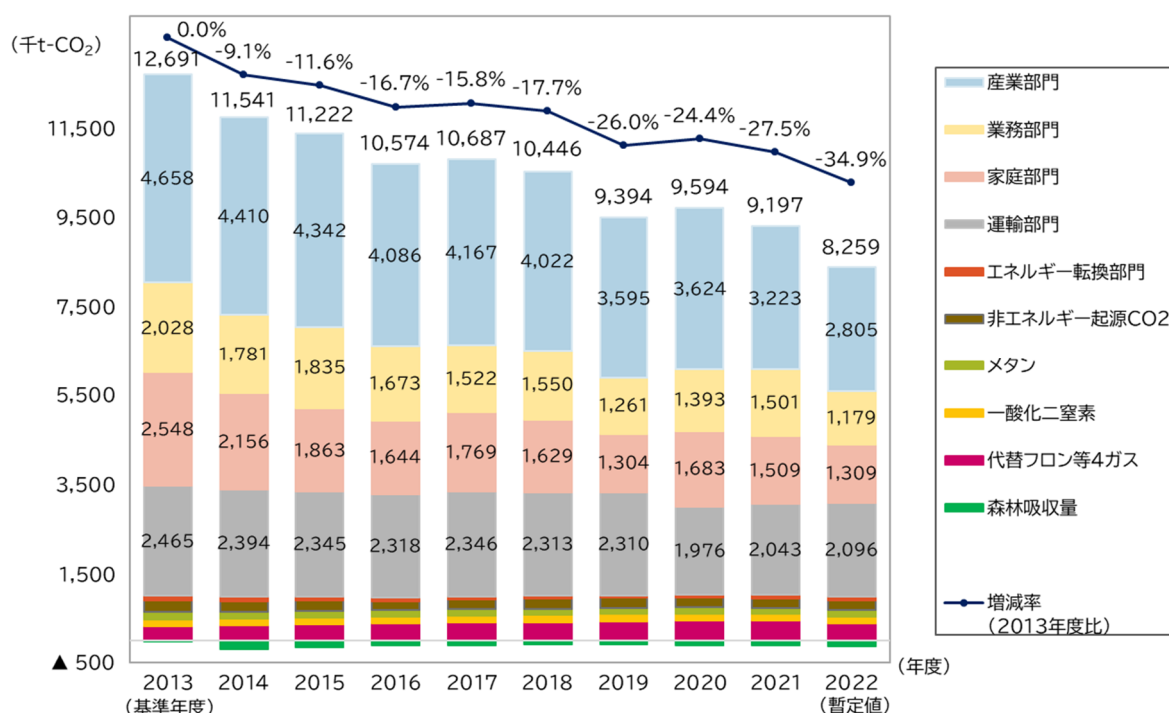


表1 温室効果ガス排出・吸収量の内訳

単位(千t-CO₂)

	2013 (H25) 基準年度	2021 (R3)	2022 (R4) 暫定値	基準年度 (H25)比	前年度 (R3)比	シェア
二酸化炭素	12,066	8,566	7,696	-36.2%	-10.2%	91.9%
産業部門	4,658	3,223	2,805	-39.8%	-13.0%	33.5%
業務部門	2,028	1,501	1,179	-41.9%	-21.4%	14.1%
家庭部門	2,548	1,509	1,309	-48.6%	-13.2%	15.6%
運輸部門	2,465	2,043	2,096	-15.0%	2.6%	25.0%
エネルギー転換部門	102	77	87	-14.3%	13.6%	1.0%
工業プロセス分野	2	1	1	-13.2%	-2.7%	0.0%
廃棄物分野	263	211	217	-17.6%	2.7%	2.6%
メタン	154	136	137	-10.8%	1.2%	1.6%
一酸化二窒素	163	147	156	-4.4%	6.3%	1.9%
代替フロン等4ガス	317	451	389	22.7%	-13.8%	4.6%
合計(排出量)	12,700	9,299	8,378	-34.0%	-9.9%	100.0%
森林吸収量	▲10	▲103	▲119	1150.9%	15.9%	
合計(排出・吸収量)	12,691	9,197	8,259	-34.9%	-10.2%	

※桁数処理の関係で、合計・比率が一致しない場合があります。

※代替フロン等4ガス: ハイドロフルオロカーボン(HFC)、パーフルオロカーボン(PFC)、六フッ化硫黄(SF₆)、三フッ化窒素(NF₃)

※令和4(2022)年度(暫定値)の算定に用いた各種統計等の年報について、暫定値の算定時点で当該年度の値が未公表のものは、R3(2021)年度の値を代用しています。そのため、令和4(2022)年度確報値との間で差異が生じる可能性があります。

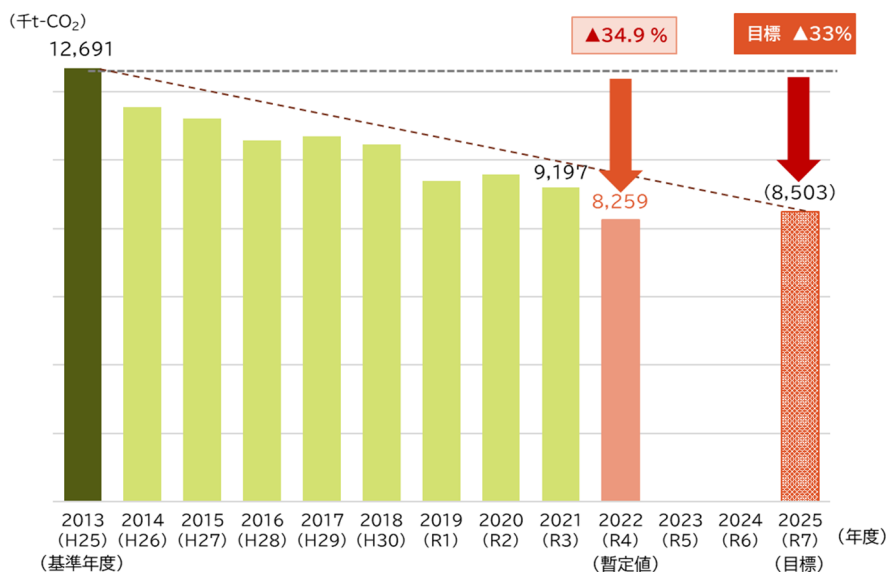
②香川県地球温暖化対策推進計画の進捗状況

本県では、「脱炭素社会の実現に向けて地域とともに取り組む地球環境の保全」を基本目標とした第4次「香川県地球温暖化対策推進計画」を令和3年10月に策定し、長期的には、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることをめざし、徹底した省エネルギーの促進、再生可能エネルギーなどの導入促進などにより温室効果ガス排出量の削減を図るための目標を掲げています。

- 計画の期間 令和3(2021)年度～令和7(2025)年度
- 温室効果ガス排出量削減目標 令和7(2025)年度に平成25(2013)年度比で33%削減

2021年度は、9,197千t-CO₂であり、基準年度(2013年度)より27.5%減少、2022年度は、8,259千t-CO₂(暫定値)であり、基準年度より34.9%減少しました。

図2 温室効果ガス排出・吸収量の削減状況



③エネルギー消費量の推移

2022年度のエネルギー消費量は、93,122 TJ(暫定値)で、基準年度から20.8%減少し、部門別で見ると産業部門(▲29.7%)、業務部門(▲11.3%)、家庭部門(▲18.7%)、運輸部門(▲14.6%)のいずれにおいても減少しています。

前年度と比較すると、産業部門(▲5.3%)及び業務部門(▲5.6%)では減少した一方で、家庭部門(+2.1%)及び運輸部門(+2.8%)では増加しました。

図3 エネルギー消費量の推移

